

東京大学グローバルリーダー育成プログラム
トライリンガル・プログラム 研修 2023



TLPドイツ語研修

大学院総合文化研究科附属グローバル地域研究機構ドイツ・ヨーロッパ研究センター 平松 英人



ケルン大学法学教室でのレクチャー



ケルン大学学生との交流会



西オーストラリア大学学生とのドイツ語による共同セミナーの様子

2016年度にスタートしたTLPドイツ語では、初年度からドイツにおける海外研修を夏と冬の計2回実施しています。毎回15名前後が参加し、TLPドイツ語履修者のほぼ全員に参加の機会が与えられてきました。現地ではドイツ語の集中的な訓練に加え、多彩な研修プログラムを通じた「ドイツで学ぶ」経験が、「ドイツ語を学ぶ」から「ドイツ語で学ぶ」へのハードルを越えていく力強い後押しとなってきました。2020年3月のケルン研修が新型コロナウイルスによる突然の感染症拡大で中止となった後も、国内でのオンライン主体による代替研修を毎年春休みと夏休みに2回実施することで、海外渡航は言うに及ばず、対面での授業実施も難しい中であって、学生が国際的な経験を積む機会を提供してきました。幸い2022年の夏休みには、2年半ぶりのドイツ渡航となるハンブルクで

の短期研修が実現しました。2023年以降は、3月にはケルンでの、8月にはミュンヘンでの研修が計画されており、履修生の期待に十分応えられる魅力的な研修プログラムとなっています。



ドイツ人学生との国際交流ワークショップでプレゼンテーションをする様子



ハンブルク日本国総領事公邸にて

受講生の声

学びに積極的な仲間と同じ環境で成長してきた経験が、学習全般の基盤になっています



TLPの制度は入学前から知っており、第二外国語を集中的に学べることに大きな関心がありました。中でもドイツ語はかっこいいから話してみたいと思っていたので、興味本位で参加することになりました。ドイツ語の必修授業に加えて週3コマで展開される授業は想像以上に忙しく感じたのをよく覚えています。特に15セメスターでは、大学生活に慣れない中で新しい言語を初めから習得することが慌ただしく感じられ苦労しました。しかしTLP履修生は学習意欲が高くドイツ語の技能も着実に伸ばしていたため、自分も置いていかれないように努力することができました。学びに積極的な仲間と同じ環境で成長して

きた経験は、ドイツ語だけでなく学習全般の基盤になっています。

最も印象に残っている出来事はやはり、2年の夏休みに行われたハンブルク研修旅行です。コロナ禍がなければ1年の夏と春にもドイツへ渡航する機会があったり、現地の大学を訪問できたりしたようでその点は残念ですが、それでも実際にドイツ語圏の国に足を踏み入れるという夢を叶えられたことに感動しました。約1週間の滞在は、フィルハーモニーの鑑賞や日本国総領事館の訪問など東大主催の研修だからこそできた体験に満ちた充実した期間でした。この研修がTLPの集大成であり授業は終わってしまいましたが、その後も検定試験と一緒に受けることや自主的なドイツ語勉強会を開くことで絆が絶えていません。

理科一類・2年 清水 賢佑 (2022年度)

このように貴重な機会が得られるTLPですが、英語学習にも力を入れないといけない点には注意が必要です。私はドイツ語の成績は問題なかったのですが、1Aセメスターの英語一列の成績が上位1割に達しなかったため修了のために外部試験を受ける必要がありました。結局、独学でTOEFL100点を超えることができたため無事修了できましたが、その際に改めて英語の重要性を実感しました。第二外国語を本格的に学ぶという者にとって間違いなく英語は欠かせないスキルです。

以上が私なりのTLPに対する思いです。このプログラムに身に着けたドイツ語を、そしてドイツ語を学んだという経験をこれからの学びにも役立てたいです！

TLPフランス語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 寺田 真彦



アンジェで世界中の学生と友達に

TLPフランス語の海外研修では、フランス語はもとより英語や日本語を意識的・多層的に用いる工夫を凝らしています。単なる言語習得ではなく、フランスの大学生との交流や高等研究機関・省庁で

のレクチャーおよび発表を通じて、社会生活、研究、行政といった幅広い場面での三言語使用の機会を設けています。

たとえば、同世代の大学生との交流では、日本語を学ぶ仏学生と交歓会を行うだけでなく、同じテーマでの発表やディベートで日仏両言語での意見交換を行います。また日本語を学ぶ授業に参加して「外から見た日本」を実感し、母語として使われる日本語に多角的な視点を持てるようにしています。一方で研究所や省庁では高いキャリアを持つ研究者や行政官と対話を持つことで、質の高い言語を用いる重要性を実感できるようにしています。

高いレベルの言語使用を通じて、将来さまざまな分野で活躍するTLP修了生の期待に応えられる海外研修となっています。



フランスのテーブル・サッカーに夢中！



ルーヴル美術館訪問



ブリュッセル自由大学での発表



アンジェ・西カトリック大学にて

受講生の声

TLPには言語を学ぶことの魅力がたくさん詰まっていました



外国語を学ぶことは本当に好奇心を掻き立てられるものです。旅行好きな私にとって、現地の言葉を知ることはその地域の歴史や文化、人々の思考の仕方に一步近づけてくれるような営みです。

私がTLPを履修したのは、フランス語の美しい響きへの憧れと、せっかく学ぶのならしっかり習得したかったという理由からでした。実際に受講してみると、初回からフランス語が雨のように降り注いできたので驚きました。まさに「インテンシブ」と言う名に相応しい授業でした。しかし、フランス語を「教えられていた」という感覚はむ

しろなく、会話や作文をするツールとしてフランス語を主体的に使っていくうちに、気づいたら身に付いているという、そんな不思議な感覚を抱きました。拙いフランス語だったとしても、頭を使って捻り出した分だけ成長に繋がっていったように思います。授業前には先生がフランスの音楽を流していて、時にはクイズやゲーム形式で、授業はテンポ良く楽しく進められていきました。また、勉強熱心なクラスメイトたちが身近にいたことで、フランス語を継続するモチベーションはますます高まりました。

幸いなことに、2年の夏にはアンジェ市で研修を行うことができました。世界中から集まった学生たちとフランス語を学び、一緒に観光すること

文科二類・2年 岸田 玲奈 (2022年度)

を通して、想像以上に仲を深めることができました。ホームステイ先での学びも多く、日本語はもちろんのこと英語も通じない環境の中、生活に根ざしたフランス語にどっぷり浸かることができました。街中を探検する時もフランス語でコミュニケーションを取り、自力で目的地に辿り着いた時の喜びは格別なものでした。通常の旅行とは違い、現地の言葉を本気で学んだからこそ得られる経験がこのフランス研修の醍醐味だと思います。これからもフランス語を学び続けていきたいです。

TLPを通して、フランス語のみならずフランスの人々や文化の魅力に触れることができました。ここで培われた語学力と経験はきっと一生の糧になると思います。

TLP中国語研修

大学院総合文化研究科附属グローバルコミュニケーション研究センター 李 彦銘

新型コロナウイルスの大流行によって、南京研修は3年連続でオンライン開催となりました。前例が（おそらく今後も）ないことなので、オンラインならではの発見や学生・教員の努力を記録して報告したいと思います。

まず語学学習におけるメリットですが、対面よりは聞き取りがとりわけしやすい、そして質問がしやすい、写真やホームページなどを共有・活用しや

すい点が挙げられるなど、一般的なオンライン授業と同じ利点がありました。また、中国語の授業が午前中に集中していたため、学生によっては午後や夜の時間を利用して部活またはアルバイトと両立できたそうです。

ただ現地開催の研修に及ばない点はやはり多々ありました。参加者の確保が最初の困難というべきでしょうか。実際には2021年と2022年ともに参加者が12名しかおらず、定員の20名より大幅に下回りました。それでも南京大学側の手厚い対応を受け、ふたクラスに分けて授業の実施ができました。個人的な感想としては、ひとクラス6人という極小人数になった分、学習効果が高くなりました。三週間に渡る研修中、学生もずっと高い学習意欲を保つことができたという印象がありました。

ほかにもいろいろ試みがありました。体を動かす機会を増やす要望に応じて2021年度の研修は午後には太極拳の授業を追加してもらいました。南京大学の学生の考案でライブ配信の形でキャンパスや南京市内の案内も実施されました。最後の2022年度は、東大側が4月から対面授業に戻ったこともあり、午後の時間帯の活動を大きく変えました。例年では南京大学講師による専門性の高い中国語講義が複数回に開催されていましたが、それを取りやめにし、代わりに東大生が自主的に企画した活動が行われました。漢詩勉強会や映画鑑賞会、湯島聖堂など中国と縁がある場所を回る会など、現地開催に及ばない程度ですが、学生間の交流と親睦が深められました。一方、南京大学の学生と高校生との交流はzoom越で数回開催されました。

来年は南京で実施を期待しております。さまざまな環境が急激に変化するなか、やはり自ら現地に赴き、肌で感じられる現地研修のほうが鋭い感覚の訓練と問題意識の発見には適していると思います。



南京大学構内の黑板・卒業記念の落書き



2021年修了式「漢語秀」プログラム



2022年度の始業式

受講生の声

素晴らしい友と充実した語学ライフを享受



こんにちは、工学部社会基盤学科に内定した松本翔龍と申します。私は中国が身近な存在であるという理由で、第二外国語は中国語を選択しました。日中英の言語を自由に使えるようになったかったので、「無謀だけどできたらいいな」と軽い気持ちでTLP中国語に申し込みました。結果、胸場で受けた数々の中国語の授業や国際交流活動でたくさん刺激を受け、良い経験になりました。

中国語の文法は英語と似ていて簡単である反面、漢字の学習に苦労しました。TLPの学生は

非常に優秀で、語学力の差に悲観することはよくありましたが、お互い助け合って切磋琢磨して学習することができました。また、私は昔から洋楽が好きで、海外経験豊富なTLP生とは気が合っても仲良くなれました。このような素晴らしい環境に運良く恵まれたことに感謝しています。

振り返れば私の語学ライフは非常に充実していたと思います。オンライン開催でしたが、長期休みを利用して台湾研修・南京研修に参加して学習を深めました。表現力が格段に向上しただけでなく、中国文化や歴史に対する理解がより一層深まりました。私の前期教養を一言で言い換えるとするならば、迷わず中国語と答えるで

理科二類・2年 松本 翔龍（2022年度）

しょう。

中国語学習は始まったばかりです。今まで習ったことを忘れず、TLP中国語で出会った人々との縁を大切にして、中国語の学習を継続させていきたいです。私の代は現地への渡航が叶わなかったもので、いつか自分で機会を作って中国へ赴き、学びたいと強く思います。

最後に、新型コロナウイルスの感染状況が一進一退する難しい状況の中、中国語を教え、学生のために講演会や交流会を用意してTLPをより充実したものにしようと日々尽力された先生方に感謝を述べたいと思います。ありがとうございました。

TLPロシア語研修

大学院総合文化研究科・言語情報科学専攻 鳥山 祐介



イエレヴァン大学でのロシア語研修

2022年2月に始まったロシアによるウクライナ侵攻の影響により、例年ロシアのサンクトペテルブルクで行っていた研修の継続が難しい状況となったため、TLPロシア語は新たな行き先を探すことを余儀なくされました。ロシア語の教育体制が整っていることを第一の条件としてさまざまな候補を検討した結果、最終的に2022年度にはアルメニア共和国のイエレヴァン大学で研修を実施することになりました。

「文明の十字路口」と呼ばれるコーカサスに位置し、独自の文化的アイデンティティを持ちながら、近代以降はロシアとも深い関係にあったという歴史的経緯から今もロシア語が広く通じるアルメニア。この地でロシア語を学ぶことは、国家と言語、文化との一筋縄ではいかない関係を肌で感じる機会にもなるはずです。研修ではロシア語の授業に加え、現地の学生との交流やロシア語を使った発表の場、さらに

アルメニアの文化や自然に触れる場も設けられています。ロシア語を学ぶことによって自分の世界が広がっていく様を実感することも研修の目的の一つです。



マテナグラン（古文書館）訪問



エチミアジン訪問



ロシア・アルメニア大学での発表



サグモサヴァンク修道院に向かう



受講生の声

手厚いサポートが受けられるTLPコースは語学習得に大変有効でした

ロシア語を選んだのは、趣味とするクラシック音楽の中で特にショスタコーヴィチやプロコフィエフなどロシア圏の作曲家に興味を持っていたから。TLPを修了した今では、辞書を片手にロシア音楽に関する文章を原語で読むことが余暇の楽しみの一つとなっています。

ロシア語は活用の多さや特殊な文法規則などが厄介で、私自身はかなり習得に苦労しましたが、今でも単語を覚えることは苦手です。しかしネイティブの講師による会話・作文の指導や2年次からの論文購読授業など、TLPでは教育体制が充実していたため、一つ一つ着実にロシア語の能力を伸ばすことができたという実感は強く持っています。またロシア語はTLP履修者が10

人前後と少なめであるため肌理細やかな語学指導を受けることができ、少人数で切磋琢磨しながら学習を続けられました。授業後に昼食を食べながら同期たちとロシアの政治問題や文化について語り合ったことも、前期教養課程のかけがえない思い出の一つです。

ロシアによるウクライナ侵攻の影響で、海外研修の滞在先は旧ソ連圏のカフカスの小国アルメニアになりました。独立から30余年が経過し公用語はアルメニア語のみである同国ですが、大学などの学術機関のみならず巷間の生活でも未だにロシア語がよく使われています。ロシア語のみで開講される授業、現地学生やガイドやスーパーの店員との会話など、ロシア語で考え話す二週間の集中的な実践を積むことができました。また授業後のエクスカーションでは

理科一類・2年 江波 駿介 (2022年度)

未知の国アルメニアの苦難の歴史や豊かな伝統文化などについて学び、異文化の価値観や生活観を体感できたことも研修の貴重な実りの一つです。感染症蔓延と軍事侵攻という度重なる障害にもかかわらず語学研修を実施して下さった関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

苦しい思いをすることもあるかと思いますが、語学に興味を持つ人であればTLPで外国語を学ぶ1年半は必ずや充実したものになるでしょう。私は2年次に理科一類から文転して後期教養学部に進学しましたが、TLPを通じて言葉と戯れることの楽しさを再確認したことは間違いなく私の決断に大きな影響を与えました。貴重な経験を求めて、チャンスがある人は是非受講してみることをお勧めします。

TLP韓国朝鮮語研修

大学総合教育研究センター 朴天弘

TLP韓国朝鮮語の研修では、高度な韓国朝鮮語能力を身につけるとともに、韓国をより深く知るための機会が提供されます。コロナ禍で中断していたソウル大学校言語教育院における研修は、2023年8月に初の東京大学単独研修の形で再び実現しました。学生のレベルに合った少人数授業やアクティブラーニングによることばの学習はもちろん、韓国料理作りや印章作り、博物館見学などを通して韓国の伝統文化や現代文化も体験できます。また、バディ（buddy）制度による同世代のソウル大生との交流を通して韓国の大学生活を身近に感じることができたり、たっぷり3週間の時間的余裕の中で、現地の人気スポットを訪れて楽しい思い出を作ることもできたりと、学生たちにも大変好評でした。韓国に滞在しながら楽しく語学を上達させる機会を得るとともに、知識としての韓国だけではなく、自分の目で見て、感じて、経験して、考えることで、韓国に対する視野を広げる時間となることが期待されます。



ソウル大学の正門にて



韓国語スピーチ大会



韓国料理作り体験



ハングルの
カリグラフィーと
印章作り体験



あっという間に修了式



担任の先生とソウル大生のバディと一緒に



楽しい食事の時間

TLPスペイン語研修

大学院総合文化研究科・超域文化科学専攻 宮地 隆廣



ユカタン・マニ農業学校



テオティワカン遺跡

TLPスペイン語では、メキシコに約2週間滞在する国際研修を行っています。前半は外国語としてのスペイン語教育の分野で長年の実績を持つ、首都メキシコシティにあるメキシコ国立自治大学（UNAM）の語学学校で学びます。スペイン語のみを用いた文法等の授業に加え、メキシコの歴史など特定のテーマに焦点を当てた講義も履修します。後半のアクティビティは年によって異なりますが、首都を離れてメキシコを体験します。2023年度の場合、マヤ文明の栄えた場所として知られるメキシコ南東部のユカタン半島に移動し、熱帯雨林にある泉（セノーテ）や有機農業の学校などを訪ねました。

大学の教室で学んできたスペイン語が日常の言葉として飛び交う。教科書やインターネットで読み、写真で見てきたものが目の前に現れる。そして、食事から人々まで、研修でプログラムされていないものに偶然出会う。学生たちは、国際研修で起きるあらゆることを鮮烈な経験として受け止めつつ、生き生きとしたスペイン語を身につけていくことになります。



国立人類学博物館



メキシコ国立
自治大学



コレヒオデメヒコ(メキシコ大学院大学)

ウシュマル遺跡





Trilingual Program

©2024 東京大学大学院総合文化研究科・教養学部附属 グローバルコミュニケーション研究センター